

大阪万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」は、SDGsの達成という課題へのメッセージだと感じました。今回の万博で各国が考える具体的な行動計画をパビリオンで示されており、個人がSDGsの課題達成を考えるきっかけになり今回の様々な新技術がより、発展していくことにより、今後の目標達成に近づいていくと思いました。

また、大屋根リングの設計においても、各社が実験結果を共有して進めたとの話を以前に伺い、時間的な制約の中で他に方法が無かったためだったとしても競い合うのではなく、共創の結果、完成した構造物であり、意味がある事だと思った。そのため、今回の万博を象徴する構造物なのでレガシーとして一部でも保存した方が良いと感じた。



威徳井 健太郎 <大屋根リング>

最近では木造でというのが多すぎると感じている。万博ではやはり木造建築物の比率が多かく感じた。

現しのものが多く移築には向かないだろうと感じた。木は安価で環境に配慮されているといわれているが、耐久性の問題や建築に適した木材は限られていることから、コスト等様々な問題はあろうが、CO2を吸収するコンクリートを使用した建築物等も増えていくべきだと感じた。



宮田 英雄 <ウズベキスタン館>

PASONA NATUREVERSE に行きました。

入場するまでに約90分、炎天下の中での待ち時間は非常に暑くて大変でした。

このパビリオンのテーマは、自然とテクノロジーの調和です。

自然や命の大切さを考えながら、心身ともに健康を維持できる為の最先端のテクノロジーを体験する事ができます。

入場してすぐに「生命進化の樹」がありました。

木の幹にある10層の地層が過去から未来を表現しています。

世界最大のアンモナイトです。

iPS細胞の心臓です。実際に拍動する様子を見る事ができます。

「未来の医療」では、医師が遠隔操作で患者を手術したり、「未来の眠り」では、センサーが身体の状態を感知し、一人ひとりに合った

今までは、老化をすると身体機能が衰え、身体を欠損すると不自由になると考えていましたが、

このパビリオンでの体験を経て少し考え方が変わりました。

衰えた身体機能は科学技術が補い、欠損した身体は科学技術で代替できる。

老若男女全ての人が何不自由なく、健康で快適に過ごせる未来がずっと先ではなく、実現可能なところまで来ているんだと思いました。



<生命進化の樹>



<アンモナイト>



上村 孝友

2025年5月22日(木)に関西万博に行きました。人生で初めての万博で凄く楽しめました。

万博では様々な国の文化や芸術などを感じられる素晴らしい機会だと思いました。私が見たパビリオンの一つでは環境問題で海が汚れていて海にごみを捨てるなどというメッセージが強く込められていました。これから先何十年、何百年、何千年と地球に住む人のことを考えて環境問題について自分でも出来る事を考えて取り組んでいければなと思いました。

渡邊 晃久



<ポルトガル館>

大阪・関西万博では、ポルトガルパビリオン、シンガポールパビリオン、飯田グループ・大阪公立大学共同パビリオンを見学しました。

特に印象に残ったものとして、飯田グループ・大阪公立大学のパビリオンでは、ウェルネス・スマートシティ(未来都市)の模型や健康に暮らせる未来住宅の仕組みなどがあり、Co2削減や国内の時給不足の問題を解決するものだと思います。そして、そのような都市の実現のためにも、長期的に使用でき(耐震性)、太陽光などのエネルギーを有効活用できる建物を造り続けることが大切だと感じました。



<ウェルネス・スマートシティ(未来都市)の模型>

ポルトガルパビリオンでは、海を探求できる展示、スクリーンで海にごみを捨てることへの警告(資源が無ければ何も与えられない)が映しだされていました。

資源を大切に利用するためにも、既存建物のリフォーム(耐震補強)によって長期的に使用する計画が増えていこうと感じました。

シンガポールパビリオンでは、夢を現実に変える過程を体験できる展示物を見学しました。建築はお客様の要望(夢)を現実に変える仕事なので、そのような仕事出来るよう考える必要があると改めて感じました。



<シンガポール館>
山城 正史

今回の万博研修はバスで訪問でしたが、降車場所は西側第2交通ターミナル。

直線距離では500m程で、実際は道が曲がり約1km程にもなり健常者にとってはそうでもない距離も、歩行が困難な者にはなかなかの距離だったかと思います。

また車いすを借りるのも40分待ち。帰り時も当然同様の距離でした。

ゲートを入れればパビリオン内にもありますが、パビリオン内まで乗り入れすることができない為、実用性を考えると課題があると思います。

屋は近大マグロ丼を頂きました。マグロだけかと思っていましたが、タイ・シマジ、そしてブリとヒラメを掛け合わせたブリヒラが乗っていました。HPによるとヒラメ・カハチ等多数の魚種の養殖・研究をされている様です。毎年漁獲高の減少などのニュースを見る中、乱獲を避ける為に有効な方法の一つであると思います。

移動手段について、かくいう私もまだ自身で動けるのであまり考えていなかったのですが、この度ミナト西ゲート間を3往復することになり、移動手段の在り方について少し考えるようになりました。

それこそそれらを解決する未来的な移動手段があれば、さすが万博と感じられたかもしれません。例えば携帯などの端末で呼び出せ、自動で保管場所に戻ってくれる車いすなど。



<マグロ丼の定食>

北井 直樹

世界各国の技術や情報・文化の発信の場であり、パビリオンは各国特徴を活かした外観であった。大屋根リングについては、建築的な印象だけでなく各パビリオンを一望できるだけでなく、外観を楽しめながら回遊でき、来場者をパビリオンだけに集中させず緩和もできていた。半年間の短いイベントでも、日本観光客だけでなく海外観光客も多く見受けられ、集客力がよいイベントであるが、基本的にはバリアフリーで車椅子利用者も回遊できる配慮があった。今回の研修では天気に恵まれたこともあったが、雨を凌げる場所は少なく、また日差しを遮る場所も少なく夏の時期に熱中症問題もあるため、イベント開催時期を考える必要はあると感じた。

世界建築を一つに集約させ、体感できる建築的な観点からは万博博覧会はよいと感じたが、技術や情報・文化の発信の場として考えると費用が掛かりすぎる大きすぎるイベントであると感じた。

世界各国の技術や情報・文化・建築を、万博博覧会を通じて知ったこともあったが、元々の自分の興味の範囲が狭いことを知るきっかけになった。イベントに参加して知るのではなく、日常の中で自主的に少しでも興味を持ち、目を向けることが大切と思った。



<大屋根リング(海岸エリア)>



有田 和樹

<スペイン館内部>